

令和5年9月22日

部課長 各位

犬山市長 原 欣伸

令和6年度当初予算編成方針について（通知）

本市においては、「犬山市第6次総合計画」及び「第2期 いいね！いぬやま総合戦略」で掲げる持続可能なまちの実現に向けて、「誰もが育ち、楽しみ、活躍できるまちへ」、「産業が栄えるまちへ」、「人にも地球にもやさしいまちへ」を基本目標に、市民の皆さんがずっと犬山に住み続けたいと思っていただける取り組みを、一層推進していかねばならない。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類相当へ引き下げられたことにより、コロナ禍からの脱却が進み、景気回復は続いていくと見込まれているものの、国際情勢や物価高騰を背景にその回復基調は鈍化していくと予想され、本市においても物価高騰の影響により、経常経費は増加し、厳しい財政状況になることが十分予測される。

更に、令和4年度決算を踏まえた歳入予測と、実施計画での各課歳出要求の積み上げにより試算した今年度の財政シミュレーションでは、令和6年度で約13億円、令和9年度までの4年間で約58億円の収支不足となる衝撃的な結果となった。このため、歳入増や最少の経費で最大の効果を目指した歳出抑制の取組みを徹底し、事業選択と優先順位を明確にした上で、厳格な査定と調整による予算編成を進めざるを得ない状況となっている。

今後、扶助費（障がい者福祉事業や介護保険事業等の社会保障関連経費）などの義務的経費の増加や、特に実施計画において特に重要視している公共施設の老朽化対策など、山積する行政課題がある中でも、将来のまちづくりを見据え、健全で持続可能な財政運営に努める必要がある。

このように、厳しい財政状況の中にあっても、今一度、職員一人ひとりが「今何を求められているのか」、「真に必要なことは何か」をしっかりと考え、市民の皆さんが真ん中にいる犬山づくりを見据えた予算となるよう、次に示す事業を軸として令和6年度の予算編成を目指すこととする。

1 重点事業（市長公約の7つの柱より）

1. 子育てで未来への投資

多子多胎世帯支援、（仮称）新橋爪・五郎丸子ども未来園整備、犬山南小学校整備、学校給食無料化（小6・中3）、城東小中学校整備、デイサービス型産後ケア

2. 教育で子どもの成長支援

特別教室等への空調設置、読解力向上推進

3. みんなで支えあう高齢者と福祉

福祉医療助成、障害者自立支援、国民健康保険運営、手話言語等条例普及推進、総合的な公共交通

4. 犬山の潜在力と可能性を活かしてまちづくりにつなぐ

企業再投資促進、中小企業等事業継続支援、蟬屋長塚線整備、地区計画公園整備、五郎丸第二排水区整備、河川空間活性化（栗栖・内田）

5. みんなに寄り添う市役所

（仮称）これからいぬやま応援団、（仮称）ずっと犬山応援団、各公共施設の修繕

6. 文化、スポーツ、市民活動でまちと人の活力につむぐ

図書館ICT化、市制70周年記念事業、多文化共生

7. 命と暮らしを守る安心安全なまちづくり

災害情報伝達システム、防犯カメラ設置

2 予算要求に際しての留意点

- ・第6次総合計画に掲げた将来像の実現のため、社会の変化に応じた施策を積極的に展開すること。
- ・デジタル技術を活用し、市民の利便性向上やサービスの充実に努めること。
- ・常に事業や事務のあるべき姿を検証し、先進自治体や民間との比較などを実施すること。
- ・事業効果と市民の信頼を高めるため、見せ方・伝え方を工夫すること。
- ・新たな補助金等を獲得するために積極的な情報収集を行うこと。
- ・施設の営繕については、計画的かつ予防的な保全を実施するため、長期的な観点から施設の修繕や改修等の需要を予測・検討すること。
- ・予算の積算については、精度を高めるとともに、限られた財源により最大の効果を挙げるように取り組むこと。
- ・市長公約である「やさしく」「げんきな」まち、ずっとずっと住む続けたい犬山の実現に向け、公約の7つの柱を着実に取り組んでいくこと。